

こひの 議会たより

NO. 77

平成 20 年 2 月 発行



図工で自分の思う作品をつくり、喜びあう児童（黒坂小学校 2 年生）

みんな上手に
できました

作品名は—

「まっちゃん」くふうしたところ
ろは、口を大きくしたところです。

（大田瑞稀）

「ハッチちゃん」くふうしたところ
ろは、ハート人形の形です。

（森川拓海）

「ダムリムロボット」うしろのし
っぽを工夫しました。

（石田尚之）

「くまの子プーちゃん」やさいを
ぜんぶけいとで、名前ペンとカラ
ーペンでつくったところです。

（景山瑞季）

— 主な内容 —

- ・議長年頭あいさつ …… P 2
- ・12 月定例会・臨時会 …… P 2～3
- ・陳情審査・意見書 …… P 4～5
- ・一般質問(6 名) …… P 6～10
- ・決算審査指摘事項の
取組み状況 …… P 11
- ・行政視察報告 …… P 12

年頭のごあいさつ



日野町議会議長 佐々木 秀明

新年明けましておめでとうございます。皆様には、家族お揃いで、輝かしい新春を迎えられましたこと、心からお慶び申し上げます。

昨年は、統一地方選挙により、日野町議会議員も改選を迎え、十名の新しい議会体制でスタートいたしました。

私も、改めて議長として選任され、その重責を担うことになりましたが、皆様方のご協力、ご支援により、職責を果たすことができました。厚くお礼申し上げます。

さて、国政においては、行財政改革・地方分権が進められています。

年金問題などの社会保障や経済基盤の違いによる、地域間格差問題、そして道路特定財源の暫定税率の廃止の問題など、生活に密着した課題が山積していますが、議論が進展していません。

私たちが自立するために行っている努力とは裏腹に、都市と地方との格差は大きくなるばかりで、中山間地域の町村は、疲弊する一方であるというのが実感であります。今、改革の名のもとに、多くの課題を抱えながら、休むことなく前に進まなければなりません。

私たちは、町民の皆様との対話を基本として、行動して参ります。

また、このような時にこそ、議会の説明責任のあり方や、議員一人ひとりの果たすべき責務を確かなものにしていくことが大切であります。

新年を迎え、心を新たに、「豊かな自然と、そこに住む人々の力や文化、歴史を生かした魅力あるまちづくり」を進めて行くことではありませんか。

今後一層の町民の皆様のご支援、ご鞭撻を心からお願い申し上げます。

12月定例会

12月12日～18日

平成十九年十二月十二日から十八日までの七日間と会期を定め、一般会計・特別会計補正予算三件、条例改正二件、意見書提出等の議案を原案通り可決、その他陳情審査を行いました。

一般会計補正予算

二千八百七十万円を減額し、総額二十八億三千九百二十二万八千円とした。

主な歳出

〈追加するもの〉

- 過疎バス対策 十三万八千円
- 特別医療費助成 百万円
- ひのっこ保育所防犯設備設置 十五万八千円
- 老人保健 百四十四万九千円
- 合併浄化槽設置整備事業補助 五十三万千円

〈減額するもの〉

- ▽町村職員退職手当組合特別負担金が五年分割払いとなったことにより 二千九百九十五万六千円
 - ▽環境衛生一般管理費 四百十万円
 - ▽管理委託料の長期継続契約を実施。 百二十六万三千円
- 財源については、町税、諸収入などを充てるもの。
この度の補正予算で雑入が三千五百十八万三千円減額され、補正後の赤字額を六千七百五十九万五千円とするもの。

特別会計補正予算

- 国民健康保険特別会計 十二万円を追加（基金からの繰り入れ） 総額四億九千二百八十四万二千円
- 簡易水道特別会計 六十四万二千円を追加（一般会計からの繰り入れ） 総額一億五千九百五十六万七千円
- 公共下水道事業特別会計 二百五十三万七千円を追加（一般会計からの繰り入れ） 総額一億四千六百九十三万円

第2回臨時会

1月23日

県貸付金繰り延べ償還で 収支改善へ

財源不足額 3,066 万円に

一月二十三日に開会し、一般会計補正予算を原案通り可決しました。
財政再建に大きな重荷となっていました。西部地震県貸付返済金について、鳥取県との協議により、単年度一億一千万円が、五千五百万円に繰り延べ償還となり、今後の財政推計（十九年度の単年度実質公債費比率三二・二割→二八・六割）が大幅に改善される見通しとなりました。

① 県貸付金繰り延べ償還

九億八千万円を一括返還し、新たに県貸付金を借り入れ（償還額と同額）返済を平成三十年まで延伸する。

② 住宅新築資金繰り延べ償還

二百六十一万二千元

③ 補償金免除繰り延べ償還

一千七百五十二万四千元
政府資金のうち七割以上の高利率分を繰り延べ償還する。

④ 西部地震関連借入金

十九年度分償還元金
五千五百万円

⑤ その他

町営バス修理費七万六千元
生活保護世帯に灯油購入助

成費十万七千円。公民館修理費十六万八千円。十二月定例会以後、削減努力で、財源不足額三千六十六万千円となりました。



一日も早い赤字解消を

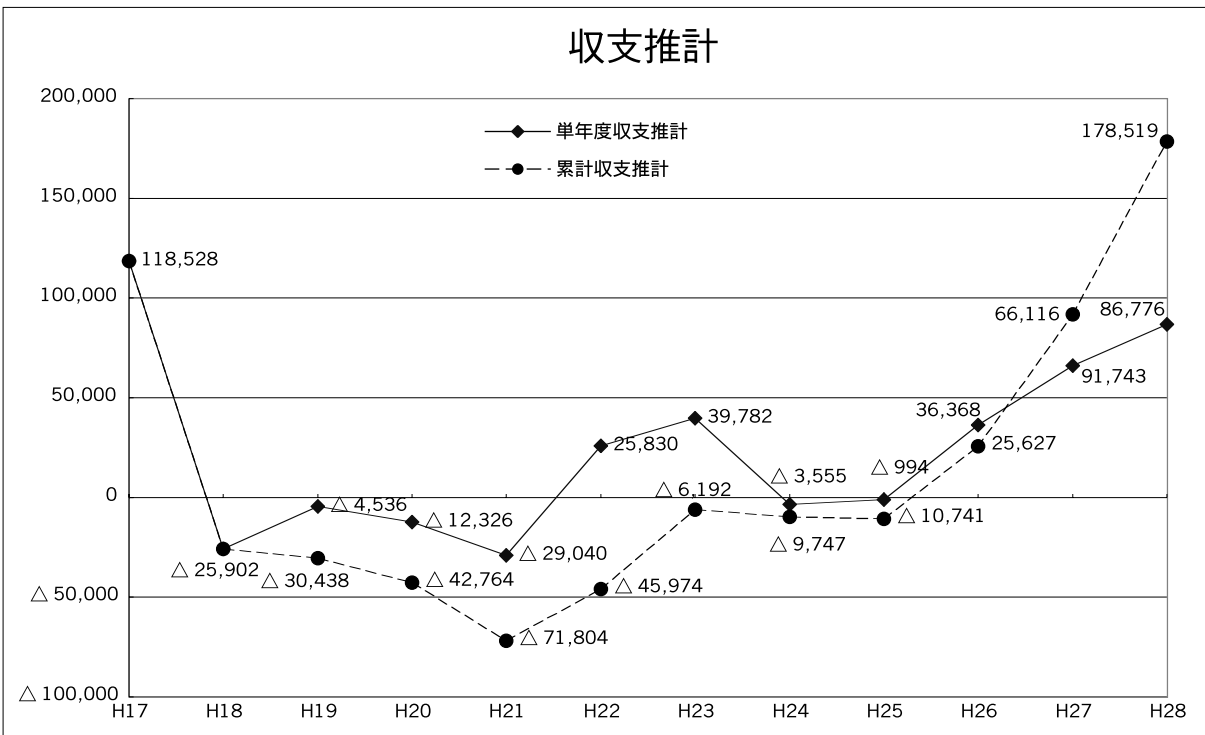
第1回臨時会

1月17日

一月十七日に開会し、条例改正五件、議員発議により議員の報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正についてを原案通り可決しました。

主なものは、町長・副町長・教育長の給料や議員報酬を減額するもの。
町職員の給料については五分から六割と幅をもたせて減

日野町の収支推計（平成20年1月現在／年度末、単位：千円）



額。（四月一日から一年間）
旅費は原油高騰により、車賃一キロにつき十六円を二十
五円に改正しました。

陳情審査結果 12月定例会分

件名	陳情者	審議結果	意見書
品目横断的経営安定対策の見直しと、多様な担い手の育成を求める陳情	鳥取県農民運動連合会 代表者 東田 久	採 択	提 出
日豪をはじめとするEPA路線を転換し自給率の向上と食糧主権にもとづく農政を求める陳情	鳥取県農民運動連合会 代表者 東田 久	採 択	提 出
JR不採用問題の解決に向けた協議の開始を求める意見書」の提出を求める陳情書	国鉄労働組合米子地方本部 執行委員長 小村宗一	採 択	提 出
後期高齢者医療制度をはじめ、高齢者医療制度改悪の中止・撤廃を求める意見書採択を求める陳情書	日本自治体労働組合総連合鳥取県本部 執行委員長 植谷和則	趣旨採択	
「保険でより良い歯科医療の実現を求める意見書」採択を求める陳情書	鳥取県保険医協会 理事長 松本 拾	採 択	提 出
後期高齢者医療制度の撤回・見直しを求める意見書の提出について(陳情)	鳥取県西部地区革新懇話会 代表 宮倉 博	趣旨採択	
島根原子力発電所周辺の断層調査と耐震基準の見直し、及び原子力に依存しないエネルギー政策の転換を求める陳情書	反核・平和の火りレー鳥取県実行委員会 実行委員長 岩井 良	採 択	提 出
地域医療と国立病院の充実に関する陳情書	全日本国立医療労働組合米子支部 支部長 渡辺和志	採 択	提 出
後期高齢者医療制度の中止・撤回に関する陳情	鳥取県社会保障推進協議会 会長 藤田安一	趣旨採択	
後期高齢者医療制度の中止・撤回に関する陳情	全日本年金者組合鳥取県西部支部 支部長 増田修治	趣旨採択	
後期高齢者医療制度の中止・撤回に関する陳情	鳥取県西部地域労働組合総連合 議長 山本喜一	趣旨採択	

日豪をはじめとするEPA路線を転換し自給率の向上と食糧主権にもとづく農政を求める陳情

反対討論

■EPAを推進しないことは、工業立国・貿易立国の立場を取る我が国が、世界経済の流れに逆行することになる。

(中原 明議員)

賛成討論

■日本農業の現状、とりわけ山間地域農業は、EPAによる低い関税率に十分対処できず、非常に大きな打撃を受けることが予想される。

(小谷博徳議員)

陳情案件について、調査研究を深めるため、説明依頼に応じていただいた「国鉄労働組合米子地方本部と日本自治体労働組合総連合鳥取県本部」の代表に説明を受け、審議しました。

議員発議で 7件の意見書提出

<要旨掲載>

意見書を、内閣総理大臣、衆・参両院議長、ほか関係大臣に提出しました。

品目横断的経営安定対策の見直しと、多様な担い手の育成を求める意見書

○ 品目横断対策を抜本的に見直し、農業をやりたい人、続けたい人をすべて対象とする。

○ 農産物の輸入を規制し、価格保障政策を復活・実現させること。

○ きめ細かな支援策を講じ、多様な農業の担い手を育成すること。

日豪をはじめとするEPA路線を転換し自給率の向上と食糧主権にもとづく農政を求める意見書

○ 日豪EPA交渉を中止し、EPA路線を転換すること。

○ 食糧主権にもとづいて、国内生産を拡大し、食糧自給率を向上させる施策を強めること。

保険でより良い歯科医療の実現を求める意見書

歯科診療報酬が抑制され、年々、保険給付範囲が縮小されていく。事実上歯周病の治療、定期的管理も保険で行えなくなった。

歯科医師、衛生士、技工士等の歯科医療確保さえ危ぶまれる状況に陥っている。

保険で歯周病の治療・管理が十分にできるとともに、保険でより良く噛める入れ歯の提供ができるよう求める。

反対討論

■今、世界は技術革新により、いかに良いものを納めるかが主な流れとなっている。

そうした低関税率二国間貿易を無視した意見書に反対する。
(中原明議員)

賛成討論

■世界の流れ等も重要ではあるが、日野町等山間地域は、小規模農家が多く、農地保全や自給率向上という考えで、日野町の農業を守る立場から賛成する。(竹永明文議員)



日野病院でも看護師不足

国立病院の廃止・縮小・民営化に反対し、地域医療と国立病院の充実を求める意見書

○ 国立病院の廃止・縮小・民営化を行わないこと。

○ 地域の実情と地域住民の要望に応じて、国立病院の機能強化を図ること。

○ 医療の複雑高度化に対応し安全でゆきとどいた医療・看護を提供するため、国立病院の医師・看護師をはじめ必要な人員を確保すること。

原子力に依存しないエネルギー政策の転換を求める意見書

日本が世界一の地震国であることを十分に踏まえた上で、原子力発電を基幹電源とする「エネルギー基本計画」を見直し、原子力を用いないエネルギー政策への転換を求める。

JR不採用問題の解決に向けた協議を求める意見書

国においては、すみやかに人道的立場から一日も早いJR不採用問題の解決に向けた協議を開始されるよう強く求めるもの。

道路特定財源の確保に関する意見書

一、道路特定財源については、暫定税率を向こう十年間維持し、地方の道路整備の実態を踏まえ、硬直的で一律な予算シリーニングの設定をやめ、受益者負担という制度の趣旨にのっとり、全て道路整備に充当すること。

二、遅れている地方の道路整備に重点投資するため、道路特定財源の傾斜配分を行うこと。あわせて、地方道路整備臨時交付金の継続及び交付割合の引き上げなどにより、地方の道路財源措置を充実すること。

三、今後増大する老朽化橋梁など、道路施設の維持管理・補修に、道路特定財源を重点的に配分すること。

質問

0/その1

情報の格差 是正を



松本利秋 議員

地デジ対策で スムーズに移行

松本 現在のテレビ放送は、四年後には完全に地上デジタル放送「地デジ」へ移行するため、今、準備が進められています。

本町は、大半が難聴地域で、共同受信施設を設置して視聴。その改修に莫大な経費がかかるようであり、最少の経費（地元負担）で、スムーズにデジタル化に移行できるように補助金を含め、取り組みが必要と思うが町長の考えは。

町長 現在、総務省とNHKにおいて、その取り組みが始まったばかりで、具体的に国の方針が示されていないので補助金等はわかりません。できるだけご期待に沿うよう努力したいと考えます。

先般の県議会の一般質問に対する知事の答弁でも、デジタル化は、国民が望んでやっただけではないので、国に整備を求めて行きたいと答弁されており、総務省の補助金等を含め、これらに期待するところです。

弱者（低所得） 対策が必要

松本 共聴組合の負担金が払



地デジ対応のテレビはハイビジョンと同じ高画質で楽しめる

えなくて、テレビが見られない世帯や弱者（低所得）対策は、必要不可欠と思うが、町長の考えは。

町長 情報として、総務省は経済弱者対策として、二〇〇八年八月までに具体的に検討されるようです。

国の結果を見ながら、対処しなければならぬと考えています。

ケーブルテレビの 整備は

松本 九月定例会で、同僚議員の質問に対し、答弁がありました。ケーブルテレビは、魅力もあるが、財政再建中で、当面は無理です。

携帯電話の 不感地区解消

松本 県は、携帯電話の不感地区の解消を狙い、携帯電話事業者などに「切実な願い」を届けるホームページを設定されました。

これを活用し、願いを届ける運動を町を挙げて取り組めないか。

町長 今後は、住民の声を基に具体的な要望が可能となります。

町民の皆さんも、是非とも県のホームページに必要性等を訴えて頂き、県と連携を図り、携帯電話事業者への要望を強め、不感地区の解消に努めたいと考えております。

条例改正

12月定例会

日野町特別医療費助成条例 の一部改正

現行の特別医療費の助成制度では、身体障害者、知的障害者、精神障害者の方は、支給制限や一部負担はありませんでした。

改正後は本人の年間所得が一定金額未満の方を助成の対象とするもの。
（年間百五十九万五千円未満）

①市町村民税非課税世帯

②自立支援医療の高額治療継続者にかかる当該自立支援医療（統合失調症、てんかん等、高額費用負担を継続するもの）

③障害者自立支援法等（障害福祉サービスの受給負担を軽減されたものは、負担はありません）それ以外の人は入院五千円～一万円。



小谷博徳 議員

子育て支援策は万全か

町営バス通園は

小谷 女性の社会進出は社会のすう勢、男女共同参画推進は行政の責務。そこに子育て支援があり若者定住のまちづくりがある。

町長の裁量で運行ができる町営バスで、通園困難世帯の問題解決はできないか。

そういう世帯に光を当てることが子育て支援とと思うが町長の考えを聞きたい。

町長 通園手段に町営バスの利用という声もある。しかし現状は時間的やりくり、バスの乗者数が満杯、バスの購入財源等により、通園は保護者で行って頂くことにした。

送迎できない家庭の線引きもむつかしく保護者送迎にご理解を頂きたい。

小谷 六十数名のアンケートで明らかとなったことがある。江府町「子供の国保育園」に預けて働いておられる家庭がある。

出勤時間を会社の理解で変更し、勤務が継続できた。帰りは日南町の母親が迎えに来ている。

真住地区では一日がかりで送迎しているお母さんがある。町長はこういう子育ての実

態を承知した上で、解消に向けた対策を講じているか。

町長 そういう事実をよく理解している。

行政としてどこまでできる

るか、保護者の皆さんの意見も聞き保育時間を十五分ずつ前後に延長して、朝七時三十分より入所、午後十八時十五分退所と設定した。

保育時間の幅を持たすことで保育に欠ける家庭の通園対策の一つとした。

児童福祉法の整合性

小谷 児童福祉法二十四条は保育に欠ける子供の優先入所を定めている。三十九条は日々保護者の委託を受けて預

かると定めてある。

保育に欠ける家庭は、八時に預け十六時の迎えでは、福祉法との整合性に疑問を持つ。

町長 朝、保護者から健康状態などをお聞きしてお預かりする。退所時には一日の生活状況等を保護者にお伝えする。保育時間に幅を持たせたので整合性について問題はないと

考えている。

どんな制度を作っても利用がないと灯が消えてしまう。保護者の都合でもう少し長くみてほしいという意見でもあれば十分検討したい。

統合を機に安心して預けられる質の高い保育所にしていくと、職員一同話し合いを進めている。

かると定めてある。保育に欠ける家庭は、八時に預け十六時の迎えでは、福祉法との整合性に疑問を持つ。町長 朝、保護者から健康状態などをお聞きしてお預かりする。退所時には一日の生活状況等を保護者にお伝えする。保育時間に幅を持たせたので整合性について問題はないと



子育て支援対策に町営バスの有効活用を

次の定例会は
3月です。

傍聴にお出かけください。

議会事務局 (72-0335)

通院千円〜二千円までの一割負担をするもの。また特定疾病患者、乳幼児、一人親家庭の支給制限は現行どおり。入院にかかる自己負担は、月額負担に上限を設け、軽減を図るもの。

日野町国民健康保険税条例の一部改正

満六十五歳以上七十四歳未満の老齢年金受給者の世帯主に特別徴収するもの。年額十八万円以下、介護保険料等、国民保険税との合計額が年金受給額の二分の一を超すなど一定の基準を満たさない者からの特別徴収はできない。

質問

その2

平成20年度施策の 基本姿勢は



中原 明 議員

自助努力なのか

中原 当初予算で一億七千万円の赤字予算計上が、十二月補正で六千七百五十万五千元と圧縮された。

内容は退職手当組合特別負担金の二千九百九十五万六千円が五年分割。日野町・江府町・日南町衛生施設組合負担金減額四百一十萬一千元、合計三千四百五十七万円は棚ぼたであり、自助努力は二千五百三十八万円、委託料の長期契約等の努力に敬意を表すが、年度末収支推計の赤字額の減額見込みはどうか。

町長 歳入を辛く見積もり、固定資産税、普通交付税を追加計上でき、十二月補正で減額により財政推計を下回る六千七百五十九万五千元に圧縮できた。

削減できたのは棚ぼたではなく、努力の結果です。しかし、今後も歳入では特別交付税が、歳出では除雪経費等の動向により、予断は許されないと思っています。

数値目標を立て

実績評価を

中原 地方公共団体財政健全化法に基づき、実質赤字比率、

連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担率の指標数値標準が規定されている。

実質公債費比率は財政破綻基準三五割に限りなく近いが、二十年度予算編成において、施策の基本姿勢は何か。

町長 厳しい状況が続く中、無駄をはぶき創意工夫を重ね知恵を出し、全事業を再検討していきたい。

中原 意気込みは理解するが、数値目標を立て、実績評価をすることが、単年度黒字への早道ではないか。

町長 個々の事業にチェックをかけることが数値目標で、総体的に考えていけば可能です。

中原 この論議は毎回噛み合



期待される地方応援プログラム
(町民ミュージカル)

わず一致点は難しいが、考慮されたい。財源確保のため町報や冊子、封筒等、印刷物の広報媒体を活用して、有料広告の掲載に取組む考えは。

頑張る地方応援

プログラムの進捗は

中原 交付税支援措置の頑張る地方応援プログラムの進捗状況はどうか。

町長 ①空き家と有休農地を活かした定住促進、②子どもと大人の居場所づくり、③日本で二番目に小さな歳美術館の設置を検討中です。

議会のうごき

11月

12日 議会広報調査特別委員会

13日 常任委員長、議会運営委員長研修

16日 県監査委員協議会研修会

19日 日野病院組合議会定例会

20日 地方自治法施行六十年記念式典

21日 県議長会行政調査

23日 西部広域議会決算審査特別委員会

27日 町村議会議長会全国大会

12月

3日 日野町江府町日南町衛生施設組合議会定例会

4日 日野町人権同和教育研修会

5日 全員協議会



佐々木 求 議員

後期高齢者医療 制度の見直しを

高齢者医療守れるか

佐々木 現在扶養家族の人も例外なく保険料を払い、保険料は年金から天引きされる。

医療そのものを制限し、別建ての診療報酬制度で差別している。滞納者には十数万円の罰則や、資格証の交付をする。また診療報酬別建ての包括払い制度、定額制を導入しようとしているが、病院の経営にも非常に大きな問題だ。

鳥取県後期高齢者医療広域連合に対して、資格証の発行をやめるとか、政府に対し四月実施の中止を求めざるべきではないか。町は窓口として対応しなければならぬ苦勞を押し付けられる。

町長 広域連合が資格管理や被保険者証の交付、保険料の決定、医療の給付を行い、町は各種届出の受付や被保険者証等の引渡し等窓口業務、保険料徴収となる。

適正な制度の運用を広域連合に働きかけていく。国の施策について意見すべきは物を申すという姿勢で対処したい。

末端の町として、本当にどうなるのか懸念を抱いている。走り出してからでは遅い部分

もあり、走り出さないと解らない面もあるので、言うべきことはきちんと後期高齢者連合にも申していく。

森林環境保全税の活用を

佐々木 森林環境保全税が三百円から五百円に引き上げられる。

町が経済的にも落ち込む中、活力や元気の出る事業の一つとして、県が十割負担の事業を拡大できないか。昨年度の枠も残っているの、弾力的な運用をするとしている。

間伐材持ち出しに立米当たり四千円の県の支援を含めて林家へ還元する日南町は、山林資源が大きく、大規模に考



後期高齢者医療制度の見直しが必要

えている。

本町の山が急峻なところは、この制度の活用に難しさはあるが、今日の経済情勢の中で、林家や森林資源を守る上で大事ではないかと考えるが。

町長 森林環境保全税の整備事業では、二十年間全伐、転用ができないことや、十年は補助事業を使った間伐ができないなどの制約がある。

間伐材持ち出し支援事業を活用し、事業拡大を図りたい。また制度の併用も県に要望していく必要がある。

農業も厳しいが、林業の局面はまだ厳しい。是非とも実行していきたい。

6日	議会運営委員会
7日	県議会長会役員会
9日	日野町生涯学習まちづくり大会
10日	例月出納検査
12日	第七回町議会定例会
13日	全員協議会
14日	総務経済常任委員会
17日	教育民生常任委員会
18日	第七回町議会定例会
20日	全員協議会
21日	定例監査
1月	日野病院組合議会臨時会
8日	議会広報調査特別委員会
10日	例月出納検査
17日	西部議長会連絡会
21日	第一回町議会臨時会
22日	全員協議会
23日	議会広報調査特別委員会
	教育民生常任委員会
	視察
	第二回町議会臨時会
	全員協議会
	議会広報調査特別委員会

一般質問

5人が立つ / その3

「リバーサイドひの」 の運営は



松原直人 議員

松原 自然とのふれあい、都市との交流を深めるための施設として「リバーサイドひの」の運営を町はどのように考えているか。

経営について専門家に相談したのか。

町長 施設の運営方法等は、今プロポーザル方式（提案型）の公募という方法をとっている。

指定管理者に応募いただく方、その方が専門家であり、運営等に精通されている方と理解している。

また、選考委員会等で運営にかかわる基本的な方針など十分に聴き取りをしながら進めなければならない。

指導・監督・指示は

松原 経営は指定管理者の努力が一番大事ですが、町の指導、監督、指示、間接的な管理も必要ではないかと思うがどうか。

町長 当然、町の施設であり、それを指定管理で行っていたら、だくという委託行為です。

もちろん要請があれば我々は相談に乗り、行政としてやるべきことがあるばやらないと認識している。

松原 募集要項では指定管理



交流施設（リバーサイドひの）は町の活性化に必要

業務に要する経費は原則として指定管理者が徴収する使用料等で賄うとあるが。

町長 町の基本的姿勢は、募集要項が基本姿勢です。

内容についてさらにどれだけ町がお金をつぎ込むかどうかというところは、応募者の中でどういう提案があったか、内容を精査しながら決定をしていくことです。

職員研修

松原 採用後十年以内の職員を継続的にアカデミー等、各種研修に参加させるべきであると思うがどう考えるのか。

職員の資質、能力、やる気をどのように高められるのか。

町長 若年職員の養成については、職員の資質の向上を図る上でも必須とするところで、専門性を有する職員、または採用間もない若年職員の育成等研修については、鳥取県自治研修所による研修や市町村アカデミーへ派遣するなど育成に努めたいと、考えているところです。

私はさらに能力を引き出すために昨年は係長以下の職員を五班に分け、少人数で日ごとから抱えている問題や課題について語り合える場を設けています。

職員の資質の向上なり能力を発揮させるためには、研修は必要不可欠であると考えます。

教育民生常任委員会 調査報告

十二月十七日、教育民生常任委員会委員と教育委員会委員との意見交換会を開きました。

生田教育委員長から、学校教育の基本的な考え方について話を聞きました。

その中で、黒坂小学校は、「三年生・四年生」、「五年生・六年生」が複式であるが、支障のない方法で、授業をしているとの、説明を受けて、一月二十九日、黒坂小学校の授業参観と学校給食試食会に参加しました。



1年生の図工

唐来校長は、「やさしさ」、「かしこさ」、「たくましさ」を育み、心豊かで生きる力を備えた児童の育成が、学校教育の目標である。

決算審査

議会指摘事項の
取り組み状況

1. 一般会計（住宅新築資金等貸付金・災害援護資金・町営住宅使用料等）、特別会計で、一億二千万円を超える滞納金の収納率向上の成果は

一、特別徴収チームで、訪問面接による納付意識の向上に努めている。

二、納付意識の向上が図れない場合、状況に応じて、動産・不動産、給与の差押さえ等の対処を検討している。

三、前年比一・七五倍の徴収実績となった。今後も全力で回収に努めたい。

2. 公共下水道、農業集落排水の加入促進と、合併浄化槽

設置事業補助金廃止を県にしないよう関係市町村に働きかけが必要

一、未設置世帯の加入促進は広報、訪問により働きかけている、高齢、独居世帯が多く困難ではあるが、引き続き加入促進を図る。

二、合併浄化槽設置事業の補助金を平成二十一年度に廃止の方向を県が出している。関係市町村で廃止せず継続の要望書を提出している。



「ぼかぼか教室」で健康管理を

3. 「ぼかぼか教室」を全町に広げる取り組みに

「ぼかぼか教室」は、当初十三地区で取り組み、現在十八地区となった。さらに全町に広げたい。

4. 基本健康診査受診率が低下している。未受診者への再度の呼びかけ、要検査者への追跡調査、予防医療の必要性等で受診率向上を

平成十八年度、千七十一人中、四百八十五人受診。
（四五・二八割の受診率）

日野病院等での検査を受けて受診されない人もある。生活習慣病等の予防意識の高揚と啓発活動、健康相談を推進し、健康づくりに努める。

5. 補助金支出は、目的、運営内容を吟味して支給を

補助金は、事業を遂行するため、費用の一部を助成するものであり、適正使用と効果、自己財源、繰越金等を勘案し、厳正に検討していく。



道路整備は重要課題



貴重な資料が保存されている歴史民俗資料館

6. 歴史民俗資料館のあり方、日野町農林公社の体制強化、町道（旧広域農道、日野金城線）の維持管理について指摘

歴史民俗資料館は、文化財審議委員会と協議し、活用方法を検討している。

農地の維持、保全管理については、運営委員会を開催し、検討。オペレーターの確保と機械整備をし、計画的に農地の荒廃防止に努める。

町道の維持管理については、作業範囲の確認と作業終了後の点検確認など、適正執行により、道路の維持管理に努める。

また小規模校なので高校、中学校、保育所との交流をし、成果を上げている、と話された。

質疑応答の後、授業参観をしました。三年生・四年生一の複式学級は、図工であり、仲良く版画の下絵を描いていました。

「五年生・六年生」は、複式学級ではあるが、主要科目（国語・算数・理科・社会）であり、学年別に学習が確保されていた。

全体的に、小規模校の特色を活かした学校づくりに努力されていきました。



実験に取り組む5年生

引き続き、多目的ホールで、全校児童や保護者、地域の人達と一緒に給食。児童と副食について意見交換をしました。

食材は、地産地消で境港で採れたイワシでつくった団子。地元野菜をたくさん入れた汁等であり、おいしくいただきました。

一人ひとりの健康づくりから

稲美町を教育民生常任委員会が視察

誰もが元気で長生きしたいと、願っている。しかし年を重ねるに伴って身体が衰え、病気になるったり寝込んでしまうようになります。

そこで、町民が元気で生き甲斐を持って暮らしていけるよう、「健康づくり」に取り組んでいる兵庫県稲美町に、教育民生常任委員会（五名全吉員）で行政視察しました。

稲美町の健康課題（背景）

- ① 平均寿命が県平均以下。
- ② 高血圧、糖尿病等の生活習慣病の受診率が高い。
- ③ 国民健康保険の一人当たり医療費が高い。
- ④ 肥満者が多い。（壮年期の四〜五人に一人）
- ⑤ 運動習慣者が少ない。

健康支援員制度を導入

このような背景から、国保のモデル事業で「健康支援員制度」を導入して、町を挙げて取り組んでいる。

具体的には、一地区（自治会）からおおむね二名程度の健康支援員（無報酬、任期三年・再任はしない）を推薦してもらおう。その人は――

- 一年目……自分自身の健康づくりをする。
- 二年目……家族・隣保の健康づくりをする。
- 三年目……地域（自治会）の健康づくりをする。



稲美町役場で「健康支援員制度」について研修

このように三年計画で、指導者を育成し、健康づくりに取り組まれていた。

現在、六十自治会の内、活動自治会は約五割である。

活動を通して、評価項目は、健康習慣指数、医療費など六項目。まだ始まったばかりではあるが、徐々に成果が上がっている、健康づくりを熱く語るられた古谷町長が印象的だった。

本町では、高齢者を対象に「ぼかぼか教室」が現在十八地区で開催されており、成果を上げている。

（稲美町は、本町より少し若い層を対象にして健康づくりを実施）。

高齢化率約四〇割の本町。将来を見据えて、健康づくりを体系的に取り組む必要性を感じ、議員は、その一翼を担う決意をしました。

稲美町プロフィール

人口〓三万二千五百人、面積〓約三五平方キロ、なだらかな田園地帯に開けた振興住宅地（流入者四四割、高齢化率一九割）。神戸市に三十分、四方を市に囲まれ、裕福な町。



ボランティアの協力で運営

治療に園芸療法

関西労災病院

尼崎市にある、関西労災病院「ホスピタルパーク（いぶきの園）」を視察した。

この病院（ベット数五百床）では、全国でも初めてという、治療に園芸療法を取り入れておられた。

病院敷地内の公園に、花や樹木が植えられ、遊歩道、ベンチ、ちょっとしたたりハビリの設備などが整備されていた。



病院の公園で園芸療法を

いぶきの園は、園芸療法士を中心に、ボランティア（全体で約九十人・いぶきの園には三十人）で運営されていたのが目を引きました。

視察した時にも、三人の女性ボランティアが花の管理を楽しそうにされていました。

一方、我が町にある日野病院。日野川に面して、環境もよく、護岸等を活用して、園芸療法ならぬ自然療法をお金を掛けないで、できないものかと、治療のことは良くわからないが、素人考えで感じました。

あとがき

財政再建の中で、この冬の少ないことを願っておられる方も多いかと思えます。

一方で降るべき時に降らないと、春先の農作業が心配な方もおられることでしょう。

議会、たよりの編集委員会は、議会の活性化の一つとして、議員の発言や、委員会の活動状況を伝えるために、解りやすい紙面づくりに努力しました。

ご意見やご感想をお寄せください。

委員 佐々木 求